

進化する大学のサステナビリティ

マネジメント、キャンパス、学生活動、教育研究の最前線

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

国連大学SDG大学連携プラットフォーム (SDG-UP)



UNU
IAS



国連大学（UNU）

国連大学は、日本に本部を置くグローバルなシンクタンクであり、同時に大学院を有する教育機関です。国連大学の使命は、人類の生存、開発、福祉など国連とその加盟国が関心を寄せる緊急性の高い地球規模課題の解決に取り組むため、共同研究や教育を通じて寄与することです。



国連大学

国連大学は12カ国にわたる13の研究所やプログラムで構成されており、国連の機関のひとつとして、他の国際的な機関や、国際条約履行事務局と緊密な連携をとっています。



UNU の世界の拠点

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）

UNU-IAS は、人類と地球の持続可能な未来を実現するために設立された研究・教育機関です。東京を拠点に、政策立案に役立つ情報を提供し、国連システムの優先課題に対処するよう、エビデンスに基づいた知識と解決策を生み出すことで、国際社会に貢献しています。

UNU-IAS の活動には、「持続可能な開発のためのガバナンス」、「生物多様性と社会」、「水と資源管理」、「イノベーションと教育」という4つのテーマにおいて研究と教育を推進しています。これらの分野を通じて、先進的な研究手法と革新的なアプローチを使って、従来型の思考に挑み、新しい地球規模課題のための、独創的な解決策を生み出

そうとしています。これらの研究、教育、トレーニングは、研究者や提携機関との世界的なネットワークと連携することで、政策立案者たちと科学・学術コミュニティとの間の相互的な結びつきを強め、サステナブルな問題解決の実現を目指しています。さらに、大学院教育を通じ、学際的な理解と技術的スキルを備えた国際的なリーダーを育成しています。こうした能力は、サステナビリティの問題に挑み、独創的な解決策を生み出すうえで重要なものです。本研究所では、日本やその他の国々の主要大学との緊密な協力のもと、様々なコースを提供しています。

目次

国連大学（UNU）	2
国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）	2
チェアからのご挨拶	4
国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム（SDG-UP）	5
SDG-UP の特色	6
成果	8
参加大学のサステイナブルアクション	10
愛媛大学	11
大阪大学	12
大阪医科薬科大学	13
大阪公立大学	14
岡山大学	15
沖縄科学技術大学院大学	16
神奈川大学	17
関西学院大学	18
北九州市立大学	19
慶應義塾大学	20
国際基督教大学	21
上智大学	22
昭和音楽大学	23
創価大学	24
千葉商科大学	25
筑波大学	26
東海大学	27
東京外国語大学	28
東京工業大学	29
東京都市大学	30
東京理科大学	31
東洋大学	32
奈良教育大学	33
ノートルダム清心女子大学	34
広島大学	35
北海道大学	36
龍谷大学	37

チェアからのご挨拶

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は、持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて、国連大学と日本の大学が連携し、高等教育における SDGs の取り組みや人材育成を強化し、取り組み成果を国内外に発信するため、2020 年 10 月に「SDG 大学連携プラットフォーム（SDG-UP）」を設立しました。現在、日本の 29 大学が参画し毎月のワークショップを通じて、日本及び世界の持続可能な社会の実現に向け日本の大学の役割と可能性について、各大学の持つ専門性、特徴を生かし、質の高い議論が行われています。

本プラットフォームでは、大学間連携による異なる専門分野を融合したオンライン教材の開発や、Times Higher Education (THE) 主催の国際会議にてパネリストとして参加するなど、単独の大学では経験できないような活動や更なるネットワークの創出という有機的な連携を推進しています。

SDG-UP がスタートした 2020 年以降、わたくしたちは、コロナ禍や戦争、地域紛争による国際社会情勢の激変といった新しい社会課題に直面しています。2023 年には、年間の世界平均気温が 14.98 度と記録にある 1850 年以降で最高となり、今後も気候変動、生物多様性の損失により高まる地政学リスクなど、多様な要因が SDGs の達成に影響を与えていく事が予想されます。大学は最先端の研究とこれからの社会をけん引する次世代の育成という役割を持つとともに、地域社会や産業界など様々なステークホルダーと連携を深め行動変容を促す可能性を持っています。SDGs の達成期限である 2030 年まで残すところ 6 年となった今、知を集結させ複雑化する多様な課題を解決する方法の提供が大学に対して求められています。

本報告書では、積極的に課題解決に取り組んでいる SDG-UP 参加大学の強みと特色を活かした取り組みをまとめています。それぞれの実績や経験を積極的に共有し、ともに課題の解決策を考えて行くことで、今後とも大学が持続可能な社会の創造に貢献していく事を期待しています。



山口しのぶ

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS） 所長
国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム チェア

国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム（SDG-UP）

SDGs の達成をはじめとする持続可能な社会の構築は平坦な道のりではなく、全ての人、国、企業、および組織が行動変容を迫られています。特に大学は、SDGs に対する若い世代の関心が高まる中、持続可能な社会に貢献できる人材を社会に送り出し、大学自体のサステナビリティを進めることで社会変容に大きく貢献することができるはずです。

各大学が抱えている課題や優良事例を共有、議論し連携することで、各大学でのサステナビリティの取組をより進化させることができます。また、議論を深めることは、各大学の構成員である教職員、学生のサステナビリティに対する意識の向上、持続可能な社会の構築に貢献する優れた学生の輩出にも繋がります。さらに、日本の大学が海

外とも連携することで国際社会におけるプレゼンスを向上させることができます。そこで、UNU-IAS では、UNU 本部のある日本の各大学に働きかけ、2020 年 10 月、SDG-UP を設立しました。現在、29 の多様性あふれる大学が参加し、30 回以上のワークショップを開催しています。

目的

- ① 個々の大学での SDGs の取組み強化
- ② 国際社会での活躍が期待できる人財の育成
- ③ SDGs に関する社会（国内外）でのプレゼンス向上

【データでみる SDG-UP】

29	4	400,000	30
参加大学数	分科会	参加大学学生総数	ワークショップ



SDG-UP 第 1 回ワークショップ

SDG-UP の特色

1 多様な大学の参加

多様性を重視することは、サステナビリティ活動の理解を深め、活動を進めるためには非常に重要です。そのため、SDG-UP の参加大学の構成においては、多様性を強く意識しています。参加大学は、日本の各地における、国・公・私立、総合大学、単科大学（音楽、教育、外国語、商科）、女子大学など多岐にわたります。こうした多様性あふれる大学間で議論することで、より参加大学の視野も広がっています。

首都圏・それ以外	14	15
国公立大学・私立大学	12	17
単科大学	6	

2 大学のマネジメント層、教員および職員が参加

大学の行動変容を促すためには、マネジメント層の関与が必須です。そこで、SDG-UP では、各大学のマネジメント層の参加を要請しています。また、SDG-UP には SDGs やサステナビリティに関心のある教員に加えて、大学マネジメントの要となる職員の参加も奨励しています。マネジメント層、教員及び職員が参加し、情報を共有することにより、一体となった大学の変化を期待することができます。

3 4つの専門分科会の設置

議論をより深化させるために、マネジメント層、SDGs カリキュラム、大学評価・アカウンタビリティ、サステナブルキャンパスの 4 つのテーマに基づく分科会を設置しています。テーマを絞ることで、より専門性の高い議論をすることができます。



4 海外大学や外部評価機関とのネットワーク

国内だけでなく海外のリーディングケースを学び、海外大学とのネットワークの構築にも注力しています。これまで、世界でもサステナブルな活動の評価が高い8つの海外大学との対話や、Times Higher Education (THE) が組織する国際的な会議に参加する機会を設けました。米国、欧州、アジア太平洋地域を中心に多様な事例を共有しています。

また、サステナビリティに関する大学ランキングであるインパクトランキングを運営する英国 THE のデータサイエンティストをゲストに迎え、ランキングの考え方や外部評価機関からみた日本の大学の長所短所を含めた立ち位置を分析しています。このような対話は、2020 年から継続的に実施しており、国際的な評価基準に対して日本の大学の意見等を直接伝える場になっています。

なお、SDG-UP の山口チェアは、インパクトランキングのアドバイザーボードのメンバーにもなっています。

【参加大学 (全 29 大学)】2024 年 3 月末日現在

愛媛大学、大阪大学、大阪医科薬科大学、大阪公立大学、岡山大学、沖縄科学技術大学院大学、神奈川大学、関西学院大学、北九州市立大学、慶應義塾大学、国際大学、国際基督教大学、上智大学、昭和音楽大学、創価大学、千葉商科大学、筑波大学、東海大学、東京大学、東京外国語大学、東京工業大学、東京都市大学、東京理科大学、東洋大学、奈良教育大学、ノートルダム清心女子大学、広島大学、北海道大学、龍谷大学



これまでに対話を行ってきた海外8大学

成果

1 SDGs カリキュラムの作成、授業開始

大学における SDGs の教育は各教員が個別に実施していることが多く、SDGs 全般について、学部を超えて広く学生が学ぶ機会が多くないことが課題でした。そこで、SDGs カリキュラム分科会が中心となって、「国連 SDGs 入門」と題した横断的なカリキュラムの作成に取り組み、参加大学の教員のオムニバス形式によるカリキュラムを作成しました。現在、4 大学において授業として取り入れられています。今後は、参加大学であればどの大学でも利用できるような準備を進めるとともに、更なる改善や利用方法の向上に努めています。

学生の感想

(合同プログラム参加者からのコメント抜粋)

- SDGs に関してはあいまいな知識しかもっていなかったため、この授業をきっかけに理解を深めたいと思った。とくに、これらの問題に自分はどのように関わっているのか、何ができるのかを知りたいと思った。
- この授業は SDGs というベースに基づいて、各回（オンライン教材が）全く違う分野の学びを提供してくれるという、いいところの授業です。
- SDGs について、理論だけでなく実践例から学ぶことができ良かったです。様々な分野から SDGs について考えることで、知識の幅が広がりました。SDGs の視点に立ってみると、現状をどのように把握していったらよいか、またどのような行動をしていったら良いか見えてくることが印象的でした。学習から得られた知識や視点を基に、行動を起こしていきたいです。



国連 SDGs 入門 2023 年度シラバス

国連 SDGs 入門 – 「行動の 10 年」のためのサステナビリティの学び

Introduction to the UN SDGs: Learning Sustainability for the Decade of Action

- (1) 授業概要・イントロダクション
- (2) 共通の前提 (UNU-IAS / 関西学院大学) 開発パラダイムの変遷と SDGs : 規範と実践の間から
- (3) 開発・国際 (東京外国語大学) アフリカから SDGs を考える – 食料問題と平和を中心に –
- (4) 開発・国際 (国際基督教大学) SDGs をめぐるグローバル・ガバナンス
- (5) 環境・持続 (北海道大学) SDGs13 と 14 に関連する学術活動としての気候科学と海洋科学
- (6) 環境・持続 (東京都市大学) SDGs の潮流とカーボンニュートラルの実践
- (7) 経済・投資 (上智大学) SDGs と ESG 投資
- (8) 経済・投資 (愛媛大学) ヒトとヒト, ヒトとモノ, モノとモノのつながり
- (9) 外国・共生 (神奈川大学) アジア (中国・韓国・台湾) と日本の SDGs 活動
- (10) 外国・共生 (関西学院大学) 日本における移民・外国人の受入れと SDGs
- (11) ジェンダー・人権 (ノートルダム清心女子大学) 行動と変化から学ぶ: SDGs 実践編
- (12) ジェンダー・人権 (お茶の水女子大学) ジェンダー基礎論・組織を強くする評価
- (13) 参画・変革 (奈良教育大学) 歴史文化遺産を通じた ESD
- (14) 参画・変革 (東海大学) 持続可能な未来を創る～わたしたちのシティズンシップ
- (15) データ・サイエンス (北九州市立大学) 国連統計データベースの扱い方

2 公開シンポジウム

SDG-UP では、2022 年、2023 年に公開シンポジウムを開催してきました。いずれのシンポジウムも、文部科学省の後援の下、参加大学の教員が多数登壇しました。いずれの会も数百名規模の大学関係者、学生および企業などが参加しています。

次回は、会場開催（オンライン配信あり）を予定しています。

2022 年 3 月 30 日開催

「SDGs 推進と大学の未来を考える」

2023 年 3 月 29 日開催

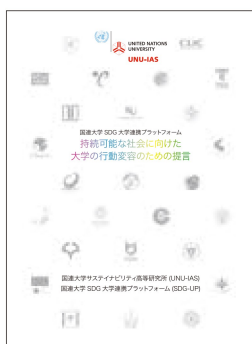
「SDGs 達成への取組みを通じた大学における行動変容を考える」



2023 年シンポジウム関係者集合写真

3 成果品の作成

SDG-UP では、毎年成果品（日本語、英語）を公開しています。成果品では、SDG-UP の概要、取組みの他、参加大学の個別の取組みも取り上げています。これら成果品は、国連をはじめとした国際会議の場でも紹介、配布し SDG-UP 及び日本の大学のプレゼンス向上に役立てています。



2021 年度成果品



2022 年度成果品

4 THE のグローバルカンファレンスに SDG-UP メンバーの北海道大学が登壇

2023 年 5 月 29 日から 6 月 1 日に Times Higher Education (THE) が主催するサウジアラビアのキング・アブドゥラー 科学技術 大学（KAUST）で開催された Global Sustainable Development Congress (GSDC) 2023 に、北海道大学が日本から唯一登壇しました。GSDC は、67 か国から 538 の教育機関が参加し、各大学の取り組みが紹介されるとともに、大学は持続可能性の概念を大学の戦略計画に埋め込み、学生に対して学際的な SDGs プログラムを必修とすることなどが成果文書としてまとめられました。



GSDC2023 招待講演

参加大学のサステイナブルアクション

1. 愛媛大学
2. 大阪大学
3. 大阪医科薬科大学
4. 大阪公立大学
5. 岡山大学
6. 沖縄科学技術大学院大学
7. 神奈川大学
8. 関西学院大学
9. 北九州市立大学
10. 慶應義塾大学
11. 国際基督教大学
12. 上智大学
13. 昭和音楽大学
14. 創価大学
15. 千葉商科大学
16. 筑波大学
17. 東海大学
18. 東京外国語大学
19. 東京工業大学
20. 東京都市大学
21. 東京理科大学
22. 東洋大学
23. 奈良教育大学
24. ノートルダム清心女子大学
25. 広島大学
26. 北海道大学
27. 龍谷大学

本書に記載されている見解は、国連大学の見解を必ずしも反映するものではありません。

大学名 (日)	愛媛大学
大学名 (英)	Ehime University
URL (日)	www.ehime-u.ac.jp
URL (英)	www.ehime-u.ac.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	SDGs 推進室 sdgs@stu.ehime-u.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.ehime-u.ac.jp/about/sdgs/

With コロナ時代のSDGs貢献人材育成プログラムの始動

愛媛大学では 2024 年から入学する学生を対象に、全学生を対象とする必修科目として「Beyond SDGs ～ポスト 2030 年の持続可能な未来～」(1 単位、非同期オンライン方式)を開講予定です。2022 年度に試行したプログラムに関する履修学生からの授業評価結果に基づき、2023 年度は授業の内容と提供方法を改善し、2 回目を実施しました。本科目はこれまでの計画通り、2024 年度入学生から履修可能となりました。

本年度は、SDGs に貢献する人材を育成することを目的としたフィールドワークを取り入れたカリキュラムも本格的に再開しました。日本、インドネシア 6 大学で共同実施

する SUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) サービスラーニング・プログラムでは、本学の学生が来日インドネシア学生と共に愛媛県内の農山漁村地域に約 1 週間滞在し、地域の SDGs 課題の解決と可能性を発掘することを目的に主体的に活動しました。2024 年 2 月には、愛媛大学の学生がインドネシアの農山漁村地域を訪問し、活動予定です。

※ SUIJI = Six University Initiative Japan Indonesia の略
 ※関連 HP: aac.isc.ehime-u.ac.jp/academic-exchange-with-indonesia/



2023 年 8 月に SUIJI サービスラーニング・プログラムに参加した日本とインドネシアの学生

大学名 (日)	大阪大学
大学名 (英)	Osaka University
URL (日)	sdgs.osaka-u.ac.jp/
URL (英)	sdgs.osaka-u.ac.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	sdgs-expo2025@office.osaka-u.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public-relations/integrated_report/2023

「いのち会議」の取り組み

2025 年に開催される大阪・関西万博において、SDGs、誰一人取り残さない社会と「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現を目指し、2023 年 3 月 24 日に大阪大学は関西経済 3 団体とともに「いのち会議」事業推進協議会を発足しました。

「いのち会議」では企業、政府・自治体、NPO・NGO、および博覧会協会とともに国内外の他大学などとも連携しながら、分科会活動であるアクションパネル（AP）を開始しました。

アクションパネルでは SDGs、ローカル課題および Beyond SDGs などについてテーマごとの分科会を発足し、テーマの達成、創造および革新に向けた活動を行っています。これらの活動は大阪・関西万博の場で「いのち宣言」として世界に発信する予定です。

また、大切ないのちを望むことや未来の社会に関して、若者や子供を含めたさまざまな声を文字や絵、動画などの形式で集めアクションパネルの取り組みやいのち宣言の策定につなげる「いのちの声」の取り組みを今後行う予定です。

「いのち会議」の活動内容

活動 1 **SDGs と SDGs+beyond のテーマに即した「アクションパネル」による活動**

産官学民のメンバー、さらには大学生や高校生、中学生や小学生を含む若者や子どもたちと一緒に、防災、エネルギー、ジェンダー、貧困など SDGs に関連するテーマ、科学技術や芸術・スポーツ等の SDGs+Beyond のテーマごとに活動を進め、それぞれのテーマの解決や達成、新たな課題の発見等を進めます。

活動 2 **「いのちの声」の集積と分析**

自分が望むことや未来の社会に関して、世代や性差、民族や国籍等、あらゆる境を超えて、若者や子どもたちも含めた小さな声を聞きます。文字で表現されるものだけでなく、絵や動画等、様々な形の作品によって表現された声を集めます。AI等を活用し、アクションパネルのテーマや SDGs 等との関係を整理し、アクションパネルの取り組みやいのち宣言の策定につなげます。

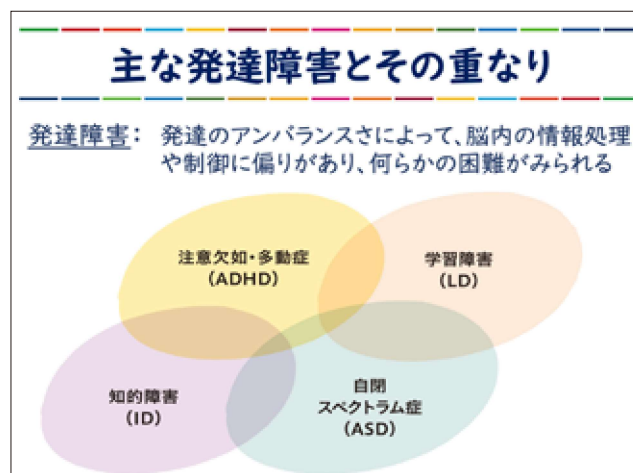
活動 3 **「いのち宣言」を策定し万博会期中に発信**

アクションパネルやいのちの声の活動を通して、いのち輝く未来社会のために人類が為すべきことを人類全体に向かって宣言し、2030年のSDGsの達成、および2030年以後の社会に向けた行動指針を示します。2025年の大阪・関西万博会場において世界に発信します。また、万博会期後も活動を拡げていく「いのち会議」の理念的な基礎とします。

大学名 (日)	大阪医科薬科大学
大学名 (英)	Osaka Medical and Pharmaceutical University
URL (日)	www.ompu.ac.jp/
URL (英)	www.ompu.ac.jp/
コンタクト先メールアドレス	sdgsompu@ompu.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.ompu.ac.jp/sdgs/
統合報告書等の URL (英)	www.ompu.ac.jp/sdgs/

共生と発達：学習障害への支援を通した SDGs の推進

学習障害 (LD) とは、読み、書きおよび計算などの学習面において著しく困難が生じる発達障害の一つです。大阪医科薬科大学 LD センターでは開設以来多様性に合わせた学びの環境を作るための診断・評価・指導の実施、アート講座などのイベントや講演会の開催および教材開発、書籍出版など、LD を含む発達障害や支援者、保護者を対象にさまざまな取り組みを行っています。こうした活動は、SDGs の目標や「誰一人取り残さない (Leave no one behind)」という理念を実践するものです。



主な発達障害とその重なり



発達障害に関する検査、教材、専門書などの出版物



通所者対象イベントでお絵描きを楽しむ子どもたち

大学名 (日)	大阪公立大学
大学名 (英)	Osaka Metropolitan University
URL (日)	www.omu.ac.jp/sdgs/
URL (英)	www.omu.ac.jp/sdgs/en/
コンタクト先メールアドレス	kikaku-sdgs@ml.omu.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.upc-osaka.ac.jp/assets/data2023_corporation_3.pdf
統合報告書等の URL (英)	www.omu.ac.jp/en/assets/omu_english_brochure.pdf

学生主導の環境報告書作成

大阪公立大学の前身である大阪府立大学並びに大阪市立大学では、従来から学生主体で環境報告書を作成してきました。2022 年 4 月の大学統合以降は、大阪公立大学の学生に加え大阪公立大学工業高等専門学校生徒も参加し、それらの経営母体である公立大学法人大阪の環境報告書として作成してきました。法人の事業活動による環境への負荷とそれを低減するための取り組み、環境に関わる教育研究活動、学生による環境活動および他の大学や企業の参考事例などを学生が主体となって取材、原稿作成および編集するというスタイルはとてもユニークです。

環境報告書作成学生チームが、本年度の新たな試みとして「ECO アイデアコンテスト」を企画しました。最近の光熱

費の高騰を背景に、危機意識を他の学生にも広く持つってもらうことを目的とする取り組みです。夏休みの期間にアイデアを募集したところ、73 件もの応募がありました。選考委員会による優秀賞 5 案の絞り込みの後、全学の学生、教職員の投票で選ばれた最優秀賞が 11 月に行われた大学祭で発表、表彰されました。最優秀賞のアイデアは「光熱費の見える化」であり、このアイデアを実現し現在では大学の WEB ページにおいて各キャンパス、棟の毎月のエネルギー消費が「見える」ようになっています。このような学生のアイデアを大学運営に活かす取り組みは、今後、環境（Environment）分野に限らず、社会（Social）やガバナンス（Governance）分野でも行う予定です。

2023 年度版公立大学法人大阪環境報告書
URL : www.omu.ac.jp/about/efforts/environment/



ECO アイデアコンテスト受賞者



環境報告書

大学名 (日)	岡山大学
大学名 (英)	Okayama University
URL (日)	www.okayama-u.ac.jp/
URL (英)	www.okayama-u.ac.jp/index_e.html
コンタクト先メールアドレス	kokusai@adm.okayama-u.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/annual.html
統合報告書等の URL (英)	www.okayama-u.ac.jp/eng/about_okayama_university/Integrated_Report.html

途上国における科学技術イノベーション分野での女性進出に資する人材育成モデルを世界発信

SDGs 達成のための科学技術イノベーション分野におけるジェンダーギャップに関する世界的なイニシアチブ「SHE in STI」-Addressing the gender gap in Science, Technology and Innovation: Select initiatives from UN system entities-」の代表的な事例の1つとして、本学の短期プログラムが国連より選出されました。

本プログラムは、国際的な課題である若手女性研究者のジェンダーギャップを解消するためのモデルとなるプログラムです。UNCTAD は、本プログラムを参考としてタイ政府との連携プログラムを 2023 年に開始しました。



本学プログラムが、国連によりSTI分野におけるジェンダーギャップに関する世界的なイニシアチブ「SHE in STI」の代表的な事例として選出(2023年5月)

<https://sdgs.un.org/sites/default/files/2023-05/IATT Gender & STI Brochure 2023 - Revised.pdf>





- UNCTAD短期研究者受入れプログラム (2020年度開始)
「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」
- UNCTAD長期プログラム (2021年度開始)
「途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム」



UNCTADは本学の人材育成プログラムを参考に、タイ政府との連携プログラムを開始

UNCTAD - Thailand Bio-Circular-Green (BCG) Economy Programme for Women



<https://unctad.org/news/unctad-and-thailand-partner-strengthen-womens-capacity-use-technology>



ジェンダーギャップの解消を目的としたプログラムの展開

大学名 (日)	沖縄科学技術大学院大学
大学名 (英)	Okinawa Institute of Science and Technology
URL (日)	www.oist.jp/ja/sdg
URL (英)	www.oist.jp/sdg
コンタクト先メールアドレス	sdg@oist.jp

沖縄在来種で森林再生 持続可能なキャンパスへ

大学は研究とイノベーションを先導する専門知識を備えており、気候変動の影響を緩和する取組みにおいてユニークな存在です。キャンパスが占める広大な土地を考慮すると、大学はキャンパスの運営と環境をより持続可能なものにするために研究以外の面でも積極的に取り組む必要があります。

沖縄科学技術大学院大学 (OIST) がキャンパスを置く恩納村の森には、固有の動物のほか、数百種の植物が生息しています。キャンパス敷地内の多様性豊かな自然環境への影響を最小限に抑え、持続可能な生態系を促進するために、OIST は沖縄県からの支援を得て未使用の芝生区域を森林に戻す取り組みをスタートしました。

2023 年の冬には、30 人以上の学内ボランティアが約 500 本の植樹に参加しました。植樹には、キャンパス周辺の森林における多様性調査のデータに基づき、生態学的に適切な樹種を選定しました。

在来種は地域の条件に適応しやすく害虫に対しても耐性があるため、農薬などの化学物質の使用を減らすことができます。将来この植林地は沖縄在来種を愛で樹木の生態学的及び文化的重要性を学ぶ、屋外教育実験室として活用される予定です。私たちは同様の森林再生の取り組みをキャンパス全体に拡大し、持続可能な環境の構築に積極的に貢献していきます。



建物とよく手入れされた芝生の写真(芝生の維持には水、肥料、殺虫剤などのコストがかかり、さらに生物多様性への悪影響も。)



子ども向け環境教室用インセクトホテルを製作



芝生エリアの場所 (赤く印をつけたところ)



作業が完了した本事業のパイロットエリア



ボランティアが土づくりをしている様子

大学名 (日)	神奈川大学
大学名 (英)	Kanagawa University
URL (日)	www.kanagawa-u.ac.jp/
URL (英)	www.kanagawa-u.ac.jp/#
コンタクト先メールアドレス	学長室 gakucho-office@kanagawa-u.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.kanagawa-u.ac.jp/sdgs/
統合報告書等の URL (英)	www.kanagawa-u.ac.jp/sdgs/

ポスターコンテスト「SDGs アワード」の開催

神奈川大学は、2018 年 9 月に「ダイバーシティ宣言」、2019 年 4 月には「SDGs へのコミットメント」を発表しました。ダイバーシティの推進をはじめとして、SDGs の達成に向けた教育、研究を推進するとともに、地域社会の課題解決など取り組みを強化しています。

SDGs の認知と意識を高めることを目的に、ポスターコンテスト「神奈川大学 SDGs アワード」を毎年開催しています。SDGs に関連した研究、取り組みおよび SDGs の課題解決に役立つアイデアなど「学生による SDGs の取り組み」を推進し、協賛企業との継続的な研究や実現に繋げています。

2023 年度神奈川大学 SDGs アワード 受賞作品 (一部)



最優秀賞：ろくらぼ



KU 奨励賞：win-win カレープロジェクト



KU 奨励賞：栗田谷レンジャーズ ～水を救え～

大学名 (日)	関西学院大学
大学名 (英)	Kwansei Gakuin University
URL (日)	kgc2039.jp/sdgs/
URL (英)	global.kwansei.ac.jp/
コンタクト先メールアドレス	kg-sdgs@kwansei.ac.jp

神戸市と SDGs 連携シンポジウムを共催

関西学院大学は、SDGs の推進において地域との連携を重視しています。2023 年 2 月 26 日には、神戸市と次世代と地域との連携による SDGs 推進をテーマとしたシンポジウムを共催しました。当日は本学の学生代表として、① SDGs の啓発に取り組む「KAKEHASHI」、②食品ロスの削減に取り組む「あすぱん.」、③神戸市北区を拠点に里山の再生などに取り組む「Re.colab KOBE」の 3 団体が登壇し、神戸市企画調整局長と神戸市内における SDGs 推進策について意見を交換しました。意見交換の中で、学生たちは専門家のいない中で中期目標を設定することや活動初期に企業から信頼を得ることなど活動する上での様々な課題を紹介しました。

本部公認学生団体と協力し SDGs WEEK を開催

関西学院大学 SDGs 推進本部は、公認学生団体「KG SDGs キャンパスサポーター」の活動を支援しています。2023 年 10 月には、学生の企画を取り入れ、SDGs WEEK を開催しました。WEEK 中のイベントとして、国際交流を兼ねた「GPS プロギング」を行いました。当日は留学生と日本人学生が混合チームに分かれ、大学の近隣で GPS アプリを使って「hyogo」等の文字を描きながら、ごみを拾いました。また、大学を出発する前には教室で SDGs に関する英語ディスカッションも行いました。この他にも、WEEK 期間中には、ラジオ番組の放送、古着の回収および SDGs の歴史に関する展示なども実施しました。

【関連リンク】

SDGs in Action @ Kwansei Gakuin (kgc2039.jp/sdgs/)
KG SDGs キャンパスサポーター (kg-sdgs.com/)



神戸市との SDGs 連携シンポジウム



SDGs WEEK での「GPS プロギング」

大学名（日）	北九州市立大学
大学名（英）	The University of Kitakyushu
URL（日）	www.kitakyu-u.ac.jp/
URL（英）	www.kitakyu-u.ac.jp/
コンタクト先メールアドレス	chiiki@kitakyu-u.ac.jp

『環境を育む』

人材育成における学際的なアプローチ（SDGs 教育）

2016 年に策定した 3 つのビジョン*の一つである「環境を育む」に基づき、環境人材の育成に取り組んでいます。全学的な基盤教育を軸としながらも、文系学部がある北方キャンパスでは副専攻環境 ESD プログラム、理系学部があるひびきのキャンパスでは学部専門教育を通じて、環境について学ぶ機会を設けています。環境問題の解決には学際的なアプローチが必要であり、そのためには他領域の知識や技術の獲得に加え、異なる専門性を持った人的ネットワークの形成が必要不可欠です。そのため、両キャンパスにまたがる科目「未来を創る環境技術」などを設定し、文理融合の教育機会の場を積極的に提供しています。

大学が設置されている北九州市は、OECD からアジア初の SDGs 推進のモデル都市に認定され、再生可能エネルギーの導入拡大や風力発電関連産業の総合拠点化を進めています。本学では、北九州市と連携して「北九州市洋上風力キャンプ× SDGs（大学向け洋上風力発電研修）」を実施するなどして、洋上風力発電人材の育成にも力を入れています。北九州市立大学は環境問題の解決につながる持続可能な社会の構築を目指し、自らが考え、解決方法を見出すことができる人材を育成するために、これからも SDGs 教育に取り組んでいきます。

*他 2 つのビジョン：『地域と歩む』、『地球（世界）とつながる』



環境 ESD 演習



北九州市環境ミュージアムにて



北九州市洋上風力キャンプ× SDGs



未来地域産業インターンシップ

大学名 (日)	慶應義塾大学
大学名 (英)	Keio University
URL (日)	www.keio.ac.jp/
URL (英)	www.keio.ac.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	office-planning@adst.keio.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.global-sdgs.keio.ac.jp/sustainability_report/
統合報告書等の URL (英)	www.global-sdgs.keio.ac.jp/en/sustainability_report/

塾生会議の始動

慶應義塾大学では、学生の意見を SDGs の取り組みに反映させるために 2022 年 6 月に「塾生会議」を発足しました。塾生が、教職員や専門家のアドバイスを受けながらディスカッションを重ねて取りまとめられた提言は、塾長を中心に検討、議論され、慶應義塾の取り組みや次年度の塾生会議の活動につながられています。



2023 年度塾生会議 最終提言発表会

女性教員メンタリング・プログラムの開始

慶應義塾大学では、女性教員のエンパワメントとリーダーシップを後押しするメンタリング・プログラムを導入しました。本プログラムは慶應義塾が加盟する環太平洋大学協会 (APRU) で実施されているプログラムのノウハウを取り入れ、メンターとメンティーが双方に学び、教え合う慶應義塾の精神のひとつである「半学半教」の実践を目指した取り組みです。2023 年度から、塾生対象のプログラムも開始しています。



女性教員メンタリング・プログラム

大学名 (日)	国際基督教大学
大学名 (英)	International Christian University
URL (日)	www.icu.ac.jp/
URL (英)	www.icu.ac.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	icu-sdgs-mygroup@icu.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	sites.google.com/info.icu.ac.jp/icusdgs/sdgs-action
統合報告書等の URL (英)	sites.google.com/info.icu.ac.jp/icusdgs/sdgs-action

学生が中心となり、学内のあらゆる場所でサステイナビリティ活動を推進

国際基督教大学（ICU）では、キャンパス内にある竹林が周囲の生態に悪影響を及ぼすのを防ぐため、竹林を管理しています。学生と教職員が協力し定期的に安全講習会を実施した上で、たけのこ掘り、竹を伐採してお箸を作るワークショップ等を開催し資源として有効活用しています。また、学食では学生グループの提案からテイクアウト時に「リリパック」という容器を使用しています。容器の表面に貼られたフィルムを食後に剥がし処分することで、容器をリサイクルすることができます。



キャンパス内の竹林管理



学食でのリリパック使用

大学名 (日)	上智大学
大学名 (英)	Sophia University
URL (日)	sophia-sdgs.jp/
URL (英)	sophia-sdgs.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	sustainability-co@sophia.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	sophia-sdgs.jp/efforts/4767/
統合報告書等の URL (英)	sophia-sdgs.jp/en/efforts/4970/

PRI (責任投資原則) の年次評価にて全ての項目で最高評価「5 つ星」を獲得

上智大学は、国連の提唱により策定された PRI (責任投資原則※) に 2015 年に署名しています。投資判断において ESG 課題を考慮することは長期的な投資収益の改善のみならず、資本市場の健全な発展と持続可能な社会の実現に貢献するものと考え署名以来 ESG 投資に取り組んできました。

2023 年の PRI の年次評価では、評価対象となる全ての項目で最高評価となる「5 つ星」を獲得しました。これまでの PRI からの評価結果を踏まえ、責任投資活動の改善に努めた結果であると考えています。今後も教育研究機関を運営する学校法人としてまた責任あるアセット・オーナーとして、持続可能な社会への実現への貢献を目指し ESG 投資に取り組んでまいります。

2023 年 PRI 年次評価結果 (概要)

	ポリシー・ガバナンス・戦略	外部委託運用 (選定、指名及びモニタリング)						信頼醸成
		上場株式 (パッシブ)	上場株式 (アクティブ)	債券 (アクティブ)	プライベートエクイティ	不動産	インフラストラクチャー	
本学評価	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)
本学スコア	96	100	100	100	100	100	100	100
中央値	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★★ (4つ星)	★★★★ (4つ星)

※ PRI は国連が支援する投資家のネットワーク。ESG 課題を投資の分析と意思決定プロセスに組み込むことなどの 6 つの原則を策定しています。

大学名 (日)	昭和音楽大学
大学名 (英)	Showa University of Music
URL (日)	www.tosei-showa-music.ac.jp
URL (英)	www.tosei-showa-music.ac.jp/english/
コンタクト先メールアドレス	lifelong@tosei-showa-music.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.tosei-showa-music.ac.jp/guide/association/
統合報告書等の URL (英)	www.tosei-showa-music.ac.jp/english/

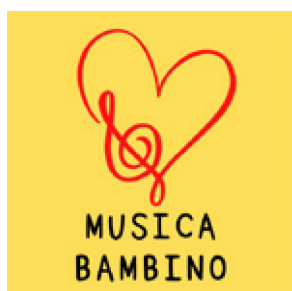
音楽や芸術を軸に地域社会とつながる — 活力と潤いのある社会を目指して —

地域の子どもの健やかな成長を支援するため音楽とこころの発達相談室「ムジカ・バンビーノ」を開設しました。未就学児の保護者を対象とした、子どもの発達や子育ての悩みを相談できる地域の子供たちの健やかな成長を支援することを目的としています。

音楽療法士、作業療法士等の資格を持つ本学教員や大学院の学生が専門性を活かし、手の発達と注意力、子どもと音絵本などのテーマでレクチャーや個別相談を行っています。

また、小学校や中学校、高齢者施設等に音楽を届けるアウトリーチ活動を授業の一環として実施しています。学生が演奏活動、企画および運営に携わり、地域貢献と自身の成長を実現する「地域と共に育つ」人材育成を目指しています。

これらの活動を通し、地域社会における芸術文化の提供と創造活動を支援し、SDGsの目標達成に努めています。



ムジカ・バンビーノ



地域での演奏活動

大学名 (日)	創価大学
大学名 (英)	Soka University
URL (日)	www.soka.ac.jp/
URL (英)	www.soka.ac.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	sokauniv-sdgs@soka.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.soka.ac.jp/about/disclosure/finance/report/
統合報告書等の URL (英)	www.soka.ac.jp/about/disclosure/finance/report/

2023 年度から副専攻制度「SDGs」を開始 —所属学部での学びに加え、文理横断で SDGs に貢献する力を育成—

創価大学では 2023 年度より、所属する学部学科のカリキュラムを学ぶ主専攻に加えて、文理横断で SDGs に関する専門科目を学べる副専攻制度を開始しました。

副専攻制度は幅広い学びを保証するため、所属する学部学科以外の分野（学部）から体系的かつ深く専門領域を学ぶことのできる制度です。例えば、経済学部の学生が経済学部で開講する専門科目を学ぶ傍ら SDGs 副専攻の科

目も学び、その上で認定要件（24 単位以上修得・卒業時に通算 GPA2.70 以上）を満たしていれば、「主専攻：経済学」「副専攻：SDGs」として成績証明書及び卒業証明書に記載されます。

創価大学は 2019 年に SDGs 推進センターを開設しました。また、中長期計画「Soka University Grand Design 2021-2030」において、教育、研究およびダイバーシティにならぶ重点項目の1つに SDGs を掲げ、教職員、学生が力を合わせ SDGs 達成に向けた取り組みを推進しています。



大学名 (日)	千葉商科大学
大学名 (英)	Chiba University of Commerce
URL (日)	www.cuc.ac.jp/
URL (英)	www.cuc.ac.jp/eng/
コンタクト先メールアドレス	p-office@cuc.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.cuc.ac.jp/about_cuc/activity/integratedreport/index.html
統合報告書等の URL (英)	www.cuc.ac.jp/about_cuc/activity/integratedreport/mstsp000002e6fo-att/integratedreport2022_en.pdf

フェアトレード大学

千葉商科大学は一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムにより、日本で5番目となる「フェアトレード大学」として認定されました。学内外でフェアトレードの啓発活動を行ってきた「CUC エシカル学生クラブ」の学生による大きな貢献が、認定につながりました。「CUC エシカル

学生クラブ」では、教職員や学食関係者と連携しフェアトレード憲章の策定、学生食堂や生協でのフェアトレード商品（コーヒー、チョコレート）の紹介およびフェアトレードに関する映画上映会や商品展示会等様々な取り組みを行っています。



CUC エシカル学生クラブのメンバー

大学名 (日)	筑波大学
大学名 (英)	University of Tsukuba
URL (日)	www.tsukuba.ac.jp/
URL (英)	www.tsukuba.ac.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	sdgsweb@un.tsukuba.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-report/
統合報告書等の URL (英)	www.tsukuba.ac.jp/en/about/integrated-report/

DESIGN THE FUTURE 機構設立

筑波大学は、2022 年4月1日に「DESIGN THE FUTURE 機構」を設立しました。本機構は、現在および未来社会が抱える地球規模課題解決のために、2030 年までの目標である SDGs とその先の Beyond SDGs に対し、本学がどのように貢献できるかを探索し人と地球の健全な未来の構築を目指しています。現在本機構では、SDGs と Beyond SDGs に関する情報発信、人材育成、地域連携および社会実装について検討を進める他、教職員、学生共同でプロジェクトに取り組んでいます。

学食で CO₂ 排出量を見える化

見えない CO₂ をどうやって削減するか？ —学食のメニューにカーボンフットプリント (CFP) を表示し、学生が気づき、自ら考えを実行し、ライフスタイル変革につながる体験を提供することにより、さらなる未来創造の発想を養います。本プロジェクトは、シダックスコントラクトフードサービス株式会社 (レシピ提供、展示協力)、一般社団法人サステナブル経営推進機構 (SuMPO、CFP 算出) の協力の下、学生たちが中心となって見える化の方法について仮説をもって検討し、効果の検証に取り組んでいます。

学群生向けの研究助成「エンブリオ・プログラム」

学群生のチームによる、①現在および未来社会が抱える課題解決を目指す研究、②人、社会、地球の健全な未来の構築に資する研究を対象にした学内研究助成制度です。

筑波大学CO₂削減プロジェクト2023

見えないCO₂をどう「見える化」するか？

学食メニューにカーボンフットプリント (CFP) 表示

カーボンフットプリント (CFP) とは？
商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスをCO₂に換算して、環境負荷を表示する仕組みです。(SuMPO HPより)

学生が実感できる「ものさし」で、CO₂排出量を「じぶんごと」に
学食メニューにCFPを表示する「CO₂見える化」に取り組みます。カーボンニュートラルの実現に向けて、学生が「気づき」→「自ら考え実行し」→「ライフスタイル変革」につながる体験を提供することにより、さらなる未来創造の発想に期待しています。
本プロジェクトは、企画：学生団体 ECHO UT、レシピ提供：シダックス株式会社、CFP算出：一般社団法人サステナブル経営推進機構 (SuMPO) の協力で推進しています。

スモークサーモン1人分、つくばセンターからどこまで行ける？
スモークサーモン1人分が提供されるまでのCO₂排出量を、つくばセンターから路線バス「筑波大学循環 (右回り)」の1人分のCO₂排出量で表すと、どこまでと同等の距離でしょう？



スモークサーモン+野菜+調味料の生産～輸送～調理のCO₂排出量 (1人分)

0.379 kg-CO₂e



路線バスを1km運行する際の1人あたりのCO₂排出量

0.066 kg-CO₂e

＝5.74 km ≒ TARAセンター前



大学名 (日)	東海大学
大学名 (英)	Tokai University
URL (日)	www.u-tokai.ac.jp/
URL (英)	www.u-tokai.ac.jp/

カーボンニュートラルと持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に向けた取り組みを紹介する Web サイトを公開

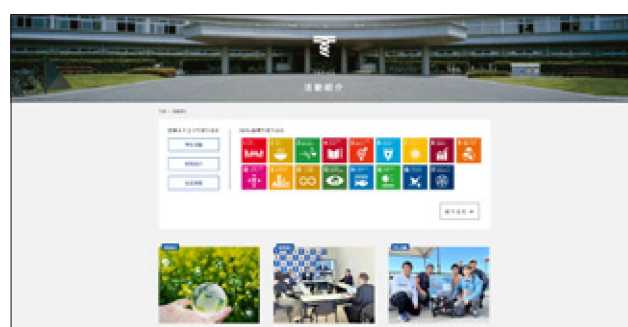
東海大学は、学園独自の教養科目「現代文明論」の講義、学生が企画、立案および運営する社会貢献活動「チャレンジプロジェクト」および TOKYO FM で放送中の番組「SDGs 学部 ミライコード」での研究発信などを通じて、カーボンニュートラルと SDGs を推進しています。

2023 年夏には、こうした取り組みを学内外へ発信する Web サイトを開設しました。

各キャンパスおよび医学部附属病院のエネルギー使用量や、学生、研究および地域連携活動を SDGs の目標番号やカテゴリーごとに閲覧することができます。

今後、Web サイト独自のコンテンツも掲載される予定です。ぜひ一度ご覧ください。

【Web サイト URL】
<https://zerocarbon.sustainability.u-tokai.ac.jp/>



カーボンニュートラルと SDGs の実現に向けた取り組みを紹介する Web サイト

大学名 (日)	東京外国語大学
大学名 (英)	Tokyo University of Foreign Studies
URL (日)	www.tufs.ac.jp/
URL (英)	www.tufs.ac.jp/english/
コンタクト先メールアドレス	研究協力課 kenkyu-soumu@tufs.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/pr/pr-brochures/TUFS-IR2023_single_low.pdf

カーボンニュートラルに向けた学生団体の活動

東京外国語大学の講義科目のひとつである「環境・エネルギー問題の動向と展望」を受講した学生のうち、環境問題や省エネルギー、再エネルギーに関する活動をすべく有志を中心に学生団体「たふえね」が立ち上がりました。

大学の正式なサークルとして活動を行っており、自然エネルギー大学リーグへの学生会員への入会、参加、他大生との情報交換および教室の照明消灯を促すステッカー作りを自らデザインを考え作成するなど積極的な活動を行っています。



省エネルギー啓発ステッカーの学内配布

大学名 (日)	東京工業大学
大学名 (英)	Tokyo Institute of Technology
URL (日)	www.titech.ac.jp/
URL (英)	www.titech.ac.jp/english
コンタクト先メールアドレス	sdg-up@jim.titech.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.titech.ac.jp/public-relations/about/disclosure/integrated-report
統合報告書等の URL (英)	www.titech.ac.jp/english/public-relations/about/overview/publications

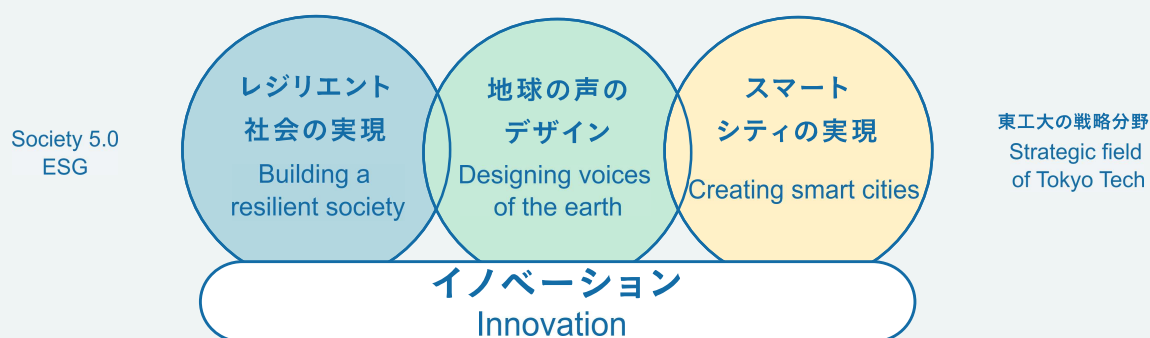
東工大 SSI (Sustainable Social Infrastructure)

人生 100 年時代の安全、安心で一人ひとりの幸せを支える、次世代の社会インフラ構築を目指した東工大の戦略分野の一つです。グローバルな社会課題の解決に向けて、環

境・社会理工学院を中核として、産官学民との協働、国際的な研究連携により、新たな「知」を生み出すとともに社会への実践的な貢献を目指しています。

東工大 SSI Sustainable Social Infrastructure

人生 100 年時代の安全・安心で一人ひとりの幸せを実現する次世代の社会インフラを実現
Next generation social infrastructure to support the safety, security, and happiness of each individual



大学名 (日)	東京都市大学
大学名 (英)	Tokyo City University
URL (日)	www.tcu.ac.jp/
URL (英)	www.tcu.ac.jp/english/
コンタクト先メールアドレス	nishibus@tcu.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.chiiki.tcu.ac.jp/tag/%E8%B2%B7%E3%81%84%E7%89%A9%E5%88%97%E8%BB%8A

通勤電車の車輌をスーパーマーケット「買い物列車」として活用する実践的研究

昨今都心部への人口一極集中により郊外部では人口の減少による街の衰退、高齢化問題が深刻化しています。人口の流出は様々なサービスの廃止や質の低下を招き、更なる人口の流出、街の衰退という悪循環を生みます。現在これらの問題には様々な方面から解決へのアプローチがなされていますが、本研究活動ではこれらの問題の中から買い物弱者の問題に着目し、鉄道車輌を移動式スーパーに仕立て上げる「買い物列車」を提案して実証実験を重ねています。買い物難民を防ぐとともに、公共交通である鉄道の維持、活性化に貢献し、同時解決的アプローチの好事例としてマスコミなどにも多数取り上げられています。



買い物列車の様子



買い物列車の様子

大学名 (日)	東京理科大学
大学名 (英)	Tokyo University of Science
URL (日)	www.tus.ac.jp/
URL (英)	www.tus.ac.jp/en/
コンタクト先メールアドレス	koho@admin.tus.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.tus.ac.jp/sdgs/
統合報告書等の URL (英)	www.tus.ac.jp/sdgs/en

特設 Web サイトで、学内の SDGs に関する情報を集約、社会に発信

東京理科大学は、SDGs の精神に通じる「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学技術の創造」との教育研究理念を掲げています。学部、研究科がそれぞれ独創的な研究を展開するとともに、総合研究院では学問分野の壁を取り除いた本学ならではの融合的連携研究を推進し、SDGs をはじめとする社会課題の解決に取り組んできました。

「東京理科大学× SDGs 特設 Web サイト」では、本学の SDGs に関する取組の情報を集約し社会に発信するため、「研究」「教育」「社会活動」のカテゴリ別に纏め、各取り組みが貢献する SDGs の目標を紹介しています。



東京理科大学 × SDGs

教育 (Education)

- 様々な学問領域の取り組みを知ること**
 問題を解く複眼的思考を身につける『創域特別講義』。
 創域理工学部 情報計算科学科
 滝本 崇宏 教授
 2024年01月17日
- 地域の人や組織と協働しながら、共に未来を構想する『コ・デザインプロジェクト』。**
 経営学部 国際デザイン経営学科
 鈴木 美央 講師
 経営学部 国際デザイン経営学科
 飯島 淳一 教授
 2024年01月17日

研究 (Research)

- 街、地域についての複合的な研究**
- 代数学を中心に基礎科学としての**

東京理科大学× SDGs 特設 WEB サイト

大学名 (日)	東洋大学
大学名 (英)	Toyo University
URL (日)	www.toyo.ac.jp/
URL (英)	www.toyo.ac.jp/
コンタクト先メールアドレス	ml-sdgs@toyo.jp
統合報告書等の URL (日)	www.toyo.ac.jp/sdgs/
統合報告書等の URL (英)	www.toyo.ac.jp/sdgs/

SDGs への理解を深める「TOYO SDGs Weeks」の開催

東洋大学は SDGs の理念に賛同し、地球社会の明るい未来づくりに貢献するため 2021 年 6 月に「学校法人東洋大学 SDGs 行動憲章」を制定しました。教育、研究、社会・国際貢献、環境貢献およびダイバーシティ&インクルージョンの 5 領域において行動目標を定め、SDGs 達成に向け活動しています。

2021 年度からは毎年 10 月～ 11 月の 4 週間を「TOYO SDGs Weeks」と題し、SDGs 関連プログラムを集中的に開催する取り組みを実施しました。2023 年度は 33 のプログラムにのべ 4,180 名が参加しました。シンポジウムなどの企画は一般公開を行い、広く社会に向けて持続可能な社会の実現に資する情報発信に努めています。



東洋大学の SDGs 情報を発信する特設 Web サイト www.toyo.ac.jp/sdgs/

大学名 (日)	奈良教育大学
大学名 (英)	Nara University of Education
URL (日)	www.nara-edu.ac.jp/
URL (英)	www.nara-edu.ac.jp/
コンタクト先メールアドレス	k-soumu@nara-edu.ac.jp

2023 年度も前年度に引き続き、以下のような ESD や SDGs 達成に関する取り組みを展開

(1) ESD を指導できる力量形成を目的とした現職教員を対象とした ESD ティーチャープログラムを、屋久島、和歌山県白浜、山形県山形市、熊本県菊池市および愛媛県松山市等 12 か所で実施し、プログラムの全国展開を進めました。プログラムは研修① SDGs の基礎的理解、研修② ESD の学習理論と単元構想案の作成、研修③ ESD 優良実践事例の分析、研修④ ESD 単元構想案の相互検討、研修⑤ ESD 学習指導案の相互検討の 5 つから構成されています。①②はオンライン、③以降は対面式での研修です。各回のミニレポート、学習指導案を提出し、審査評価を経て「ESD ティーチャー」を認証しています。

ESD ティーチャーの上位に ESD マスター、ESD スペシャリストのコースがあります。学会や研究会での発表、実践報告などコースによって修了要件が重層化する仕組みになっています。今年度は約 170 名を認証予定です。

(2) 大学が中核となり教育委員会、学校、企業および社会教育施設などのマルチステイクホルダーと近畿 ESD コンソーシアムを運営し、ESD 事業を展開しました。その成果発表会、実践交流会を 1 月 6 日、7 日に実施しました。成果発表会・実践交流会では、日頃 ESD を学ぶ児童・生徒が学習成果を発表する ESD こどもフォーラム、ESD に関する講演会やシンポジウム、ESD ティーチャーによる ESD 実践の交流など、充実した情報発信の機会になっています。

(3) 本学 ESD の充実させるべき展開として、国際的視野をふまえた ESD 活動があります。その企画のひとつとして、「ESD 国際シンポジウム in 奈良 2024」を 2 月 17 日に実施しました。

(4) 昨年に引き続き、「ESD・SDGs 連続オンラインセミナー 2023」を実施しました。

(5) 本学の一般教養科目「国連 SDGs 入門」を開講し、SDG-UP 作成のコンテンツを活用した授業が実施（2023 年度後期）されました。受講登録学生は 34 名（1 学年 255 名）。教育実習などもある中で、おおよそ半数の学生が、全コンテンツ視聴のサーティフィケートを取得予定です。



奈良教育大学 (SDGs) を支援しています。

2023 年度 近畿 ESD コンソーシアム 成果発表会・実践交流会

開催日 2024年1月6(土)7(日)

会場 奈良教育大学 奈良教育大学本部大会議室、ESD・SDGs センター多目的ホール、講義棟

1/6(土) 9:50 ~ 17:10

9:50~10:00 開会行事

10:00~12:20 **ESD 子どもフォーラム**
ESD を実践している学校の児童・生徒による取り組み発表と交流

13:30~15:30 **ESD 実践交流会 I**
全国の先生方・企業・NPO等による ESD 実践発表

15:45~17:00 **ESD 講演会**
持続可能な未来のために—人と自然との共生とは—
NPO 法人共済の森ネットワーク理事長 澁澤寿一氏

17:00~17:10 閉会行事

ESD 講演会 講師紹介

しづさわ じゅいち
澁澤 寿一 氏

1952 年生まれ。国際協力機構専門家としてパラグアイに赴任後、長崎オランダ村、ハウステンボスの企画、経営に携わる。NPO 法人共済の森ネットワーク理事長。全国の高校生 100 人が「森や川、川の老人」をたずねる「聞き書き甲子園」の事業や、各地で開催する「なわいびき」など、森林文化の教育・啓蒙を通して、人材の育成や地域づくりを手をける。岡山県真庭市では木質バイオマスエネルギーの活用による地域活性化に貢献。



ノートルダム清心女子大学

大学名 (日)	ノートルダム清心女子大学
大学名 (英)	Notre Dame Seishin University
URL (日)	www.ndsu.ac.jp/
URL (英)	www.ndsu.ac.jp/english/index.html
コンタクト先メールアドレス	nrs@post.ndsu.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.ndsu.ac.jp/about/result.html

全学授業と「清心コラボ」で SDGs を推進する

ノートルダム清心女子大学では、SDGs 推進にむけた全学的な取り組みを「地域連携・SDGs 推進センター」を中心に実施しています。

(1) まず「学生の教育」に関しては、国連 NGO として SDGs 策定にも関わった本学設立母体のナミュール・ノートルダム修道女会 (SND) の国連オフィスの取り組みと「ほんらいの SDGs」について学ぶ授業を実施しています。毎年、全 1 年生必修科目 (「人間論」) の第 3 回を、地域連携・SDGs 推進センター長が担当し、そこでサステナビリティ意識調査も実施するようにしています。意識調査を通して 1 年生時と、卒業時調査の結果を比較し、4 年間でどのような学びを得たのかを評価しています。また全学科目として、SDG-UP カリキュラム分科会において共同構築した「国連 SDGs 入門」も 2022 年度から実施し、毎年約 100 名の学生が受講しています。

(2) 「地域社会とのコミュニケーション」については、サステナブルな岡山、瀬戸内の実現に向けた全学的な社会連携活動 (「清心コラボ」) を地域連携・SDGs 推進センターが中心となって 2023 年度から本格的に実施しています。学生が学部学科、学年を超えて集まり、産業界や行政、地域、地縁および国際的な連携活動に取り組んでいます。女子学生に対して社会貢献の機会を提供し、リーダーシップ強化、キャリア意識の醸成および起業への関心を高めるようにしています。また、地域社会 (行政、会社、NPO・NGO、町内会および消防団などの地縁組織) に対しても SDGs 目標 5 (ジェンダー平等を実現しよう) の達成を考える大切な機会を提供しています。

「清心コラボ」の取り組みに「国連 SDGs 入門」受講者が多く参加するなど、本学において (1) (2) の取り組みは互いに関連しあっています。

掲載資料は、学内ラウンジに掲示している「清心コラボ」の案内パンフレットの例です。



『清心コラボ』案内パンフレット

大学名 (日)	広島大学
大学名 (英)	Hiroshima University
URL (日)	大学案内 : www.hiroshima-u.ac.jp/about 広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点 (NERPS ※1): nerps.hiroshima-u.ac.jp/
URL (英)	About Hiroshima University: www.hiroshima-u.ac.jp/en/about NERPS: nerps.org/
コンタクト先メールアドレス	NERPS 事務局 : nerps@hiroshima-u.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	統合報告書 : www.hiroshima-u.ac.jp/about/ir_fb/ir SDGs 報告書 : nerps.hiroshima-u.ac.jp/files/sdgs-report/HU_SDGs_report2023.pdf
統合報告書等の URL (英)	統合報告書 : www.hiroshima-u.ac.jp/en/about/ir_fb/ir SDGs 報告書 : nerps.hiroshima-u.ac.jp/files/sdgs-report/HU_SDGs_report2023en.pdf

※ 1NERPS : Network for Education and Research on Peace and Sustainability

「持続可能な発展を導く科学」の確立を通じ、SDGs に資する新たな統合知の創出

広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点／NERPS (Network for Education and Research on Peace and Sustainability) では、2020 年より平和と持続可能性に関するトランスディシプリナリー研究プロジェクトを実施しています。

2020 年 12 月～2022 年 3 月には、コロンビア大学、デューク大学、ノッティンガム大学中国寧波校およびストック

ホルム国際平和研究所とのプロジェクトを実施しました。2023 年 2 月～2025 年 3 月には、下図に示した大学や研究所と同様なプロジェクトを実施します。将来的には、それぞれが国際通用性の高い研究拠点となり、広島大学の長期ビジョンが謳う「持続可能な発展を導く科学」の確立に資することを目指しています。

① 国際応用システム分析研究所 (オーストリア)

代表研究者: **Ali Kharrazi**

リン輸入依存度の高い国々における循環型社会の実現に向けた都市政策と適用戦略に関する研究



② マードック大学 (オーストラリア)

代表研究者: **Tobias Ide**

反政府組織は災害にどのように対応するのか？



③ 南フロリダ大学 (米国)

代表研究者: **Katherine Alfredo**

インドの東部マハラシュトラ州及び西ベンガル州のコミュニティにおける技術導入と安全な水へのアクセスを改善するために、貧しい家庭がどのように交渉を行っているかについての研究



④ コロンビア大学 (米国)

代表研究者: **Joshua Fisher**

天然資源と保護地域に関連する平和、紛争及び環境の持続可能性の要因に関する研究



大学名 (日)	北海道大学
大学名 (英)	Hokkaido University
URL (日)	www.hokudai.ac.jp/
URL (英)	www.global.hokudai.ac.jp/
コンタクト先メールアドレス	sdg@facility.hokudai.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.hokudai.ac.jp/pr/
統合報告書等の URL (英)	www.global.hokudai.ac.jp/about/publications/

THE インパクトランキング 4 年連続国内 1 位獲得

北海道大学が THE インパクトランキングにおいて 2020 年から 4 年連続で国内 1 位を獲得したことを称える楯が、THE 社から授与されました。

海外での講演

GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS 2023 に、招聘され、講演を行いました。講演では、北海道大学の SDGs に関する取り組みを紹介しました。

学内エンゲージメントの醸成

北海道大学の目標の一つである「SDGs 達成への貢献」への理解を深めるため、学内全教職員対象に、FD・SD を実施し、大学構成員全員のエンゲージメント（一体感と共感）を醸成しています。



4 年連続国内 1 位の楯



GSDC2023 招待講演



FD・SD の実施

大学名 (日)	龍谷大学
大学名 (英)	Ryukoku University
URL (日)	www.ryukoku.ac.jp/
URL (英)	www.ryukoku.ac.jp/english2/
コンタクト先メールアドレス	rec-k@ad.ryukoku.ac.jp
統合報告書等の URL (日)	www.ryukoku.ac.jp/sdgs/
統合報告書等の URL (英)	www.ryukoku.ac.jp/english2/sdgs/

エコキャンパス 再生エネルギー 100%達成

龍谷大学では再生可能エネルギーの地域実装化研究を地域金融機関などと進め、「地域貢献型メガソーラー発電事業」のモデルを考案しました。本モデルを基に、本学が社会的責任投資（SRI）として参画する「龍谷ソーラーパーク」を2013年に設置しました。その後もエコキャンパスの取り組みを継続し、再生可能エネルギーによる電力需給契約に切り替え、2023年6月に3キャンパスすべての使用電力が100%再生可能エネルギーとなりました。



龍谷ソーラーパーク印南（和歌山県印南町）

龍谷大学学生気候会議の開催

世界的規模で脱炭素社会への挑戦が進む中、欧州などでは政府、議会および自治体が気候危機の回避を目的として、「気候市民会議 (Climate Assembly)」を開催し、市民の代表者による議論を通じた政策提言が行われています。このような世界的潮流を受け、2021年に学生が主催し学生が参加する「龍谷大学学生気候会議」が開催されました。2022年の第2回会議では前年度参加学生が中心となり学生団体「OC's」を立ち上げ、会議の議論などを提言書に取りまとめ学長に提出しました。



学生気候会議提言書 2022

国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム事務局
SDGs-UP@unu.edu



Copyright © 2024 United Nations University. All Rights Reserved.